

できてうれしい

わかって楽しい

体育学習



◎令和2・3年度 川崎市教育委員会 体育科研究推進校
◎令和3・4年度 神奈川県健康・体力づくり実践研究校

令和4年9月28日（水）

川崎市立新町小学校

川崎市立新町小学校



学習指導要領体育科の目標

「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して」心と体を一体として捉え、

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するため
の資質・能力を次の通り育成することを旨とする

研究の概要

- 新町小学校が目ざす「体育学習について」

平成28～30年度まで支援教育を研究



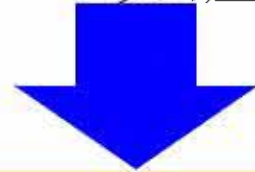
- ◆主体的に活動できる場面設定
- ◆関わり合いながらめあてに迫れる工夫



子供達の居場所作り



- ・ だれもが体育学習を楽しいと思える
- ・ 体育学習に夢中になって取り組む中で知識技能が高められる
- ・ 友達同士で教え合い切磋琢磨できる関係をつくる



できてうれしい わかって楽しい 体育学習

大切にしたい考え方

体育学習を進める上で

「みんなで行うと楽しい」「たくさん動けて楽しい」
だけで満足してはいけない

知識
技能

主体的で対話的な
深い学び

学びにむかう力
人間性等

どのような
手立てを講じるか

楽しい

児童の
実態把握

環境整備

授業の
構造化

視覚的
支援

個別支援

一次支援

ユニバーサル
デザイン的な支援

一斉指導の中での
全体支援

一次支援

研究全体会

- ・ 研究テーマの設定
- ・ 研究内容について
- ・ 研究の進め方



研究改善

研究推進部

- ・ 研究授業、研究計画検討
- ・ 子ども像の検証



授業改善

環境整備部

- ・ 運動タイム
- ・ 場作りや掲示の工夫



環境改善

研究推進部

各学年部のめざす子ども像

特別支援級：できた・できるようになったと感じ取り、
楽しみながら運動に取り組む子

低学年：友達と楽しみながら、めあてをもって運動に
取り組む子

中学年：友達とのかかわりを通して、自分のめあてに
向かって挑戦する子

高学年：友達とかかわり、自分と向き合い、めあて
達成のために何度も挑戦する子

環境整備部

ねらい
「環境」という
視点から
研究授業や日常の
体育学習の充実を図る



- ◆運動タイム
プロジェクト
- ◆用具管理
プロジェクト
- ◆掲示
プロジェクト
- ◆仕掛け
プロジェクト

運動タイムプロジェクトの取り組み(2020年度から)

ねらい

児童が運動の楽しさを体感し、運動を日常化することができる。

運動タイムの設定

朝の10分間
週に1回

体を動かす楽しさ

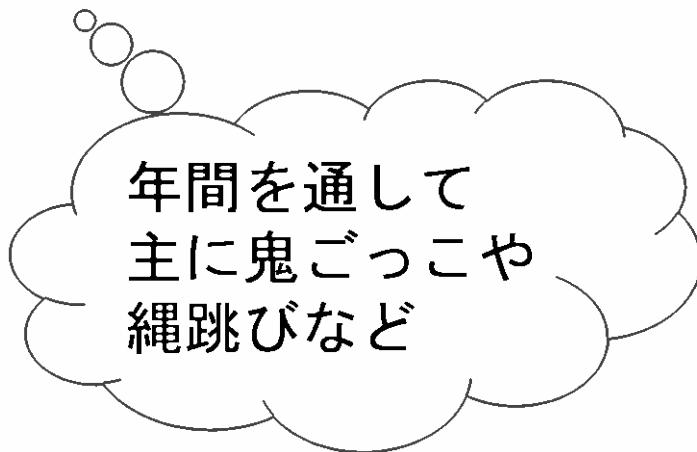
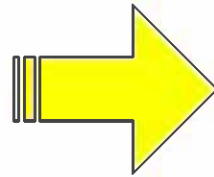


クラスみんなで
遊ぶ楽しさ

運動タイムプロジェクトの取り組み

— 昨年は・・・

楽しく体を動かす



昨年は・・・

体育学習とのつながりを意識したい！



運動タイムプロジェクトの取り組み

運動タイムの年間計画作成

令和3年度 環境整備部 運動タイム計画 (2・3・6年)

	6月	7月	8月	9月	10月
1学年	100 (金)	200 (金) 200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)
2学年	100 (金)	200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)
3学年	100 (金)	200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)
4学年	100 (金)	200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)
5学年	100 (金)	200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)
6学年	100 (金)	200 (金) 300 (金)	100 (金)	200 (金) 300 (金)	200 (金) 300 (金)

予備運動を中心に！



用具管理プロジェクトの取り組み

ねらい

使いたい用具がどこにあるのかを児童も職員も一目で分かるような倉庫の整理

どこに片付け
れば
いいのかわ
べらを見たら
すぐに分
かるね



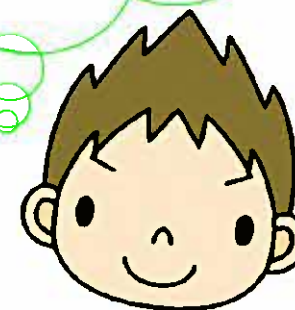
授業で使う用具
が
すぐに出せるか
ら
はやく準備が終
わって
たくさん運動が
できる!



「だれもが」

「どの単元でも」

「使いやすい」



掲示プロジェクトの取り組み

ねらい

児童が日常的に運動に親しみ、興味・関心を高められるような校内掲示の充実を図る。

同じ学年の友達が、こんな記録を持っているんだね！わたしにもできるかな？

児童にとって

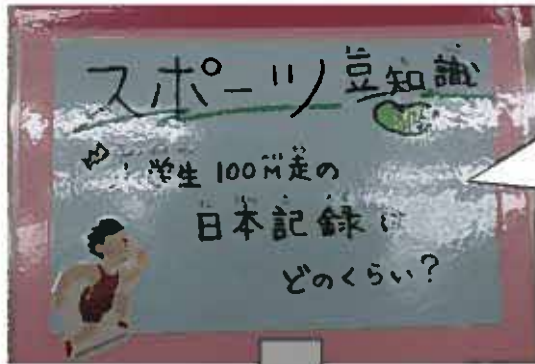
身近な競技

スポーツ選手が持っている記録はすごいなあ。挑戦してみたい！

身近な選手



掲示プロジェクトの取り組み



階段や廊下の壁面など、
児童が普段から目にする
場所に・・・



開くと・・・



- スポーツテストに含まれる種目
- 小学生の日本記録
- 著名なスポーツ選手の記録
などを、クイズ形式で！

反復横跳びの平均回数
数って
44回なんだ！
ぼくたちは何回
跳べるかな？

仕掛けプロジェクトの取り組み

ねらい

児童が自然と体を動かしたくなるような遊びの仕掛けを作成する。



4つのプロジェクトの効果

運動タイム

成果

予備的な運動が体育学習へのつながりに！



用具管理

成果

必要な用具を考えた準備や片付け⇒活動時間増！

4つのプロジェクトの効果

成果

掲示

児童の興味を広げる**きっかけ**づくり



成果

仕掛け

「運動」を意識せず**自然と**楽しめる場の設定

各学年の実践報告

- ・ 特別支援級ゲーム「ボールゲーム」
- ・ 1年 体づくり運動「体ほぐしの運動遊び」
- ・ 2年 表現リズム遊び「表現遊び」
- ・ 3年 体づくり運動「多様な動きをつくる運動」
- ・ 4年 器械運動「鉄棒運動」
- ・ 5年 保健「けがの防止」
- ・ 6年 ゴール型ゲーム「バスケットボール」

<すずかけ級>

「ねらって なげて たのしいな ボールゲーム」

<すずかけ級テーマ>

「できた」「できるようになった」と感じ取り、楽しみながら運動に取り組む子



手立て1

スモールステップで
力をつけていく
学習の道すじ

手立て2

安心感をもち
意欲的に活動できる
チーム編成

手立て3

どの子も楽しめる
場と規則

手立て3

どの子も楽しめる場と規則



実態 1年生から6年生までの異学年の
集団 → 技能の差が大きい

- ・ 技能に応じて、的までの距離が選べる場
- ・ スペシャルゾーン
- ・ ボーナスポイント



すずかけ級 ボール運動 実践報告

成果

- ボールが怖くて触れなかった子が、楽しそうにボールを投げようになった。
- 勝敗でもめた時に、話し合っで決め、勝敗を受け入れることができた。
- チーム内でパスを回し、チームのみんなでゲームをしようとしていた。
- ゲームに負けて悲しんでいる友達に、「次、がんばろう。次は、もっとがんばるから。」と励ましていた。

課題

- 規則を理解することができるための個別支援
- どの子も楽しめる場とするための規則
(スペシャルゾーンの活用法)
- チームの作戦をたてる時の、相談を進める方法



<第2学年>

表現遊び「なりきりフェスティバル」

<低学年テーマ>

友達と楽しみながら、

めあてをもって運動に取り組む子

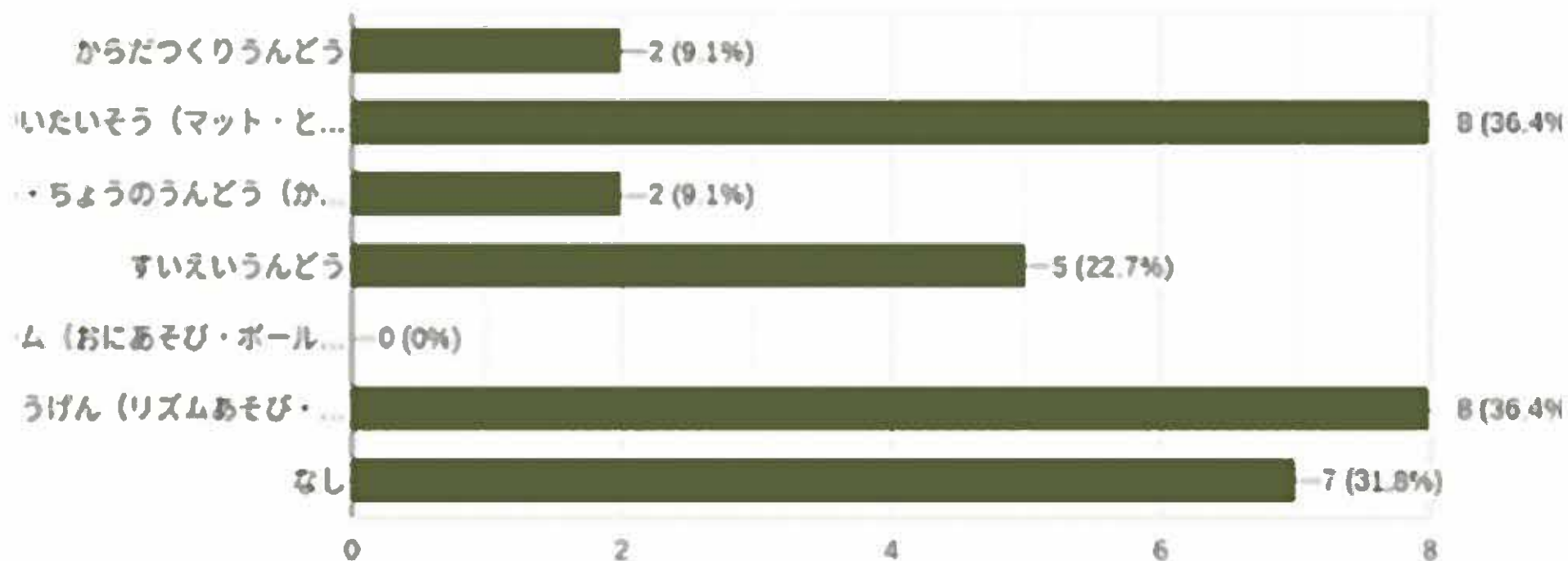
手立て1
夢中になれる
題材設定

手立て2
動きを知るため
のICT活用

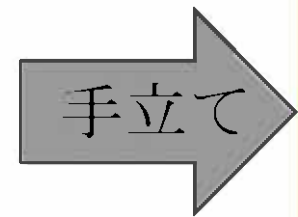
手立て3
動きを高める
関わり合い

2年 表現遊び 実践報告

たいいくのがくしゅうのうんどうのなかで、きれい、にがてなもの
のはどれですか。（こたえはいくつでも）

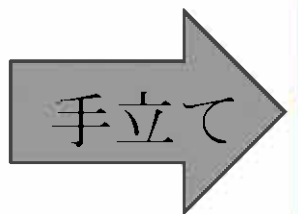


自らの体と心をひらいていくことが重要



つい体を動かしてしまおう
心・体ほぐしタイムの設定

考えて動きやすいように不安を取り除く



グループ編成
音楽を使っでの実践

夢中になれる
題材の設定



2年 表現遊び 実践報告

主活動の工夫

児童の実態を見てグループ編成

➡ グループの中で協力する
姿が見られた

音楽を流しての活動実践

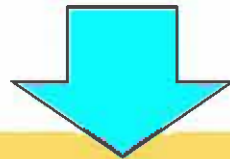
➡ 次に何をやるのかを
迷わずに活動できる



実践を通してみえてきたこと

- ・ 活動量の確保
- ・ 一人で活動するのではなく、みんなで活動する時間を多くとる

恥ずかしいと感じる時間を作らないようにした

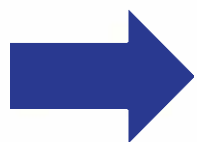


次々と活動が切り替わり、自ずと活動が多くなった

2年 表現遊び 実践報告

- ・イメージを広げてほしいという教師の思いと子供の実態があっていない
- ・イメージすることが苦手な子が「ほぐしタイム」だけではカバーできない
- ・「好きなように」「思うように」は難しい

難しいな...



教師がもっと紹介する時間を確保することが必要
適切な声かけのバリエーションを増やしていく

＜第4学年＞ 器械運動「鉄棒運動」
目指せ鉄棒名人！ぐるぐるまわる！ぐんぐんできる！

＜中学年テーマ＞

友達とのかかわりを通して、
自分のめあてに向かって挑戦する子



手立て1
実態に応じた学
習の道すじ



手立て2
技のポイントを精選
段階的に伝える



手立て3
仲間との
効果的な見合い

手立て2 技のポイントを精選、段階的に伝える

易しい条件で段階的に！

できることを増やしたり、

できるようになりたいという意欲を高めたりする

手だて

そのために

1. 精選した動きのポイント
2. 段階的な練習方法の提示

技のポイント

1. つばめの姿勢



ここがポイント！
つばめの姿勢
腰骨の下に鉄棒

なぜ腰骨の下？

ふり幅を大きくすることで
勢いをつけることができる

動きのポイント

2. ふとん干しからブランコ



ここがポイント！
ふとん干しからダルマ
脇の締めとブランコ

なぜ脇を締める？
なぜブランコ？

- 脇が開くと回転できず
落下してしまう（あごを打つ）
- ブランコ（膝の曲げ伸ばし）は
2回目以降の勢いがつく



動きのポイント

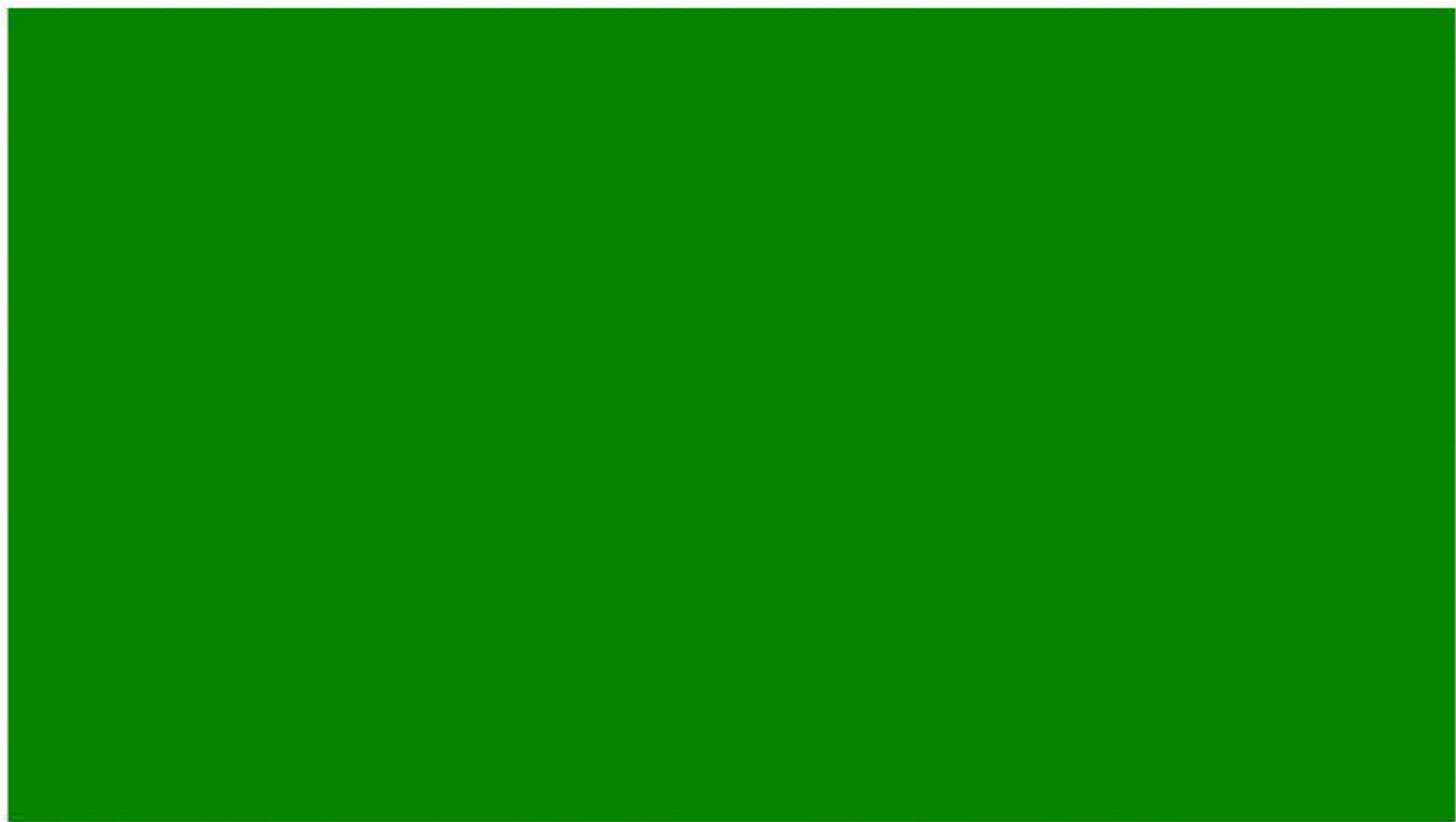
3. 助走からのかかえ込み



ここがポイント！
2～3歩助走から
勢いをつけて

なぜ助走？

つばめの姿勢からだと思い切って
振り込むことができない子は
振り込みの勢いをつけるために
助走をとる



実践を通して

○かかえ込み回り（支持系の基本的な技）の
精選した動きのポイントや段階的な練習方法

によってクラス児童の 8 割が支持系の基本的な技が習得できた。



6年 ボール運動ゴール型「バスケットボール」
「ラン&ガン～どんどん走って、どんどんシュート！～」

<高学年テーマ>

友達とかかわり、自分と向き合い、
めあて達成のために何度も挑戦する子

手立て1

基本的な動きやボール操作を身に付ける

手立て2

身に付けた力をチームの中で生かしてゲームをする

手立て3

どのような動きが効果的であったか、客観的に捉える

手立て②身に付けた力をチームの中で生かしてゲームをするために
《ルールの工夫について》

選べるルール	
①シュートゾーンから 決めたら得点が倍	②指定した一人が 決めたら得点
	③ 3人得点 +6点
	4人得点 +8点
	5人得点 +10点
	全員得点 総得点倍

作戦!

ルールにあった攻撃の仕方を考える!

手立て③どのような動きが効果であったのか、客観的に捉えるために《ふりかえりについて》

【①対戦チームとのふりかえり】



【②チームでのふりかえり】



<実践を通して見えてきたこと>

○ルールを選べるようにしたことで、

チームでの動きや個人の役割(めあて)をより意識してゲームを行うことができた。

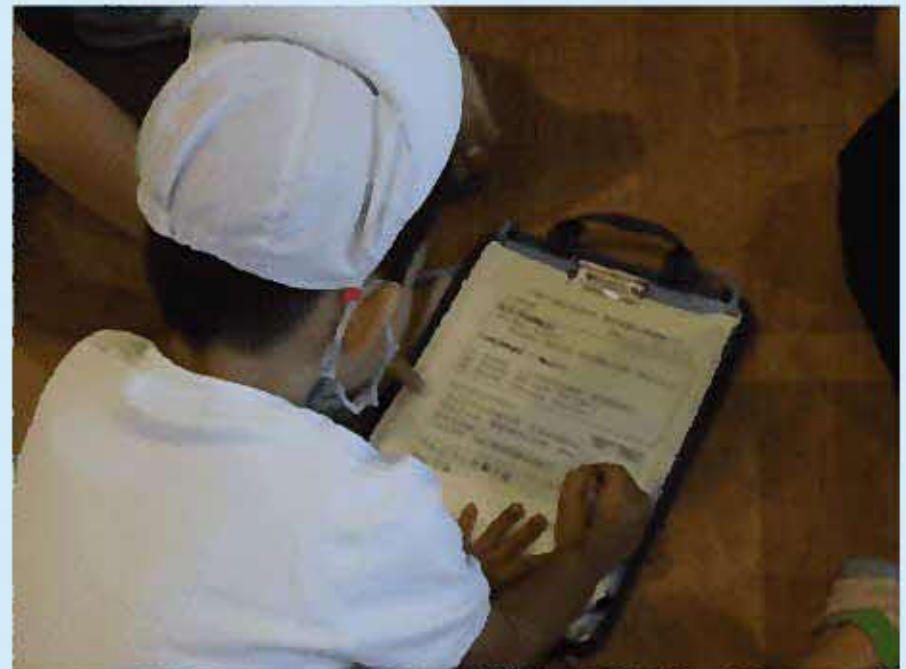
○振り返りを対戦相手チームと行ったことで、

チームや個人の動きを客観的に捉えることができ、
次のゲームに生かすことができた。



1年「体ほぐし運動」

見通しをもってとりくむための、めあて選択性



3年 体づくり運動「多様な動きをつくる運動」

題材・場の設定を大事に考えた



5年 保健「けがの防止」

保健学習で大切にしたこと・・・

身近な諸問題として題材をとらえられるように！

保健室からの協力

けがでの利用人数

けがの種類

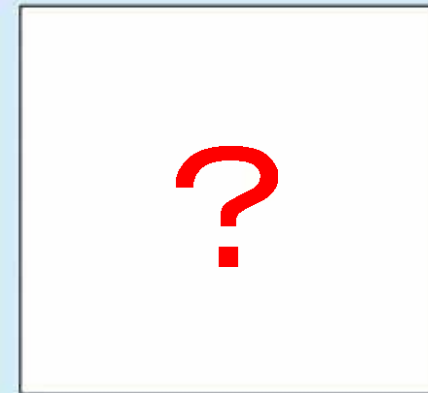
写真4コマ漫画

日常生活で起こりうる

けがの場面

わかる！休み時間に
よくこの場面見るよね。

廊下の真ん中で本を読んでいるよ。
このあと、きっとぶつかってしまうね。



日常生活のあるある → 問題意識をもち、考えようとする姿に！



GIGA端末を使って

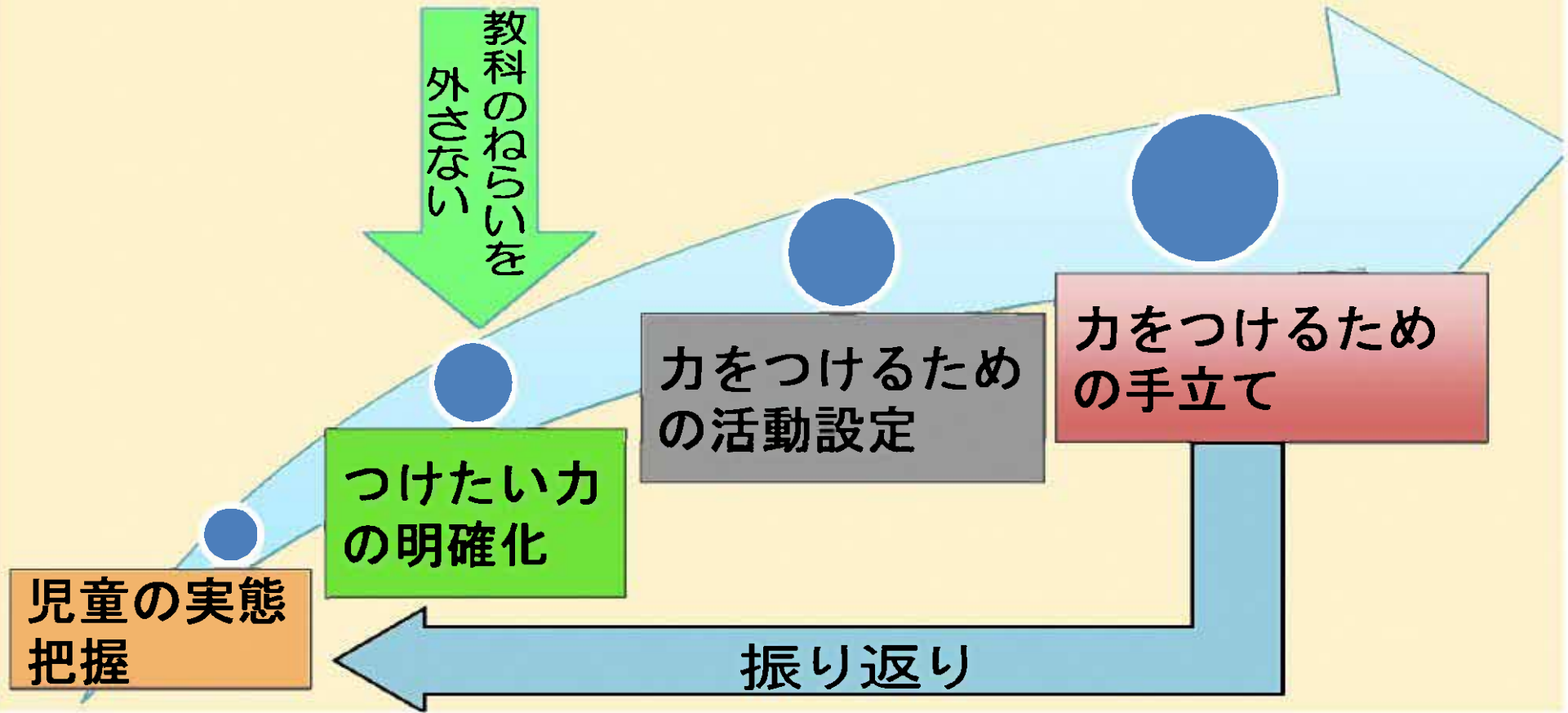
学校内で「見つけた危険」を
写真にとり、クラス内で共有

この消火器、ぶつかって
つまづく危険があるかも！

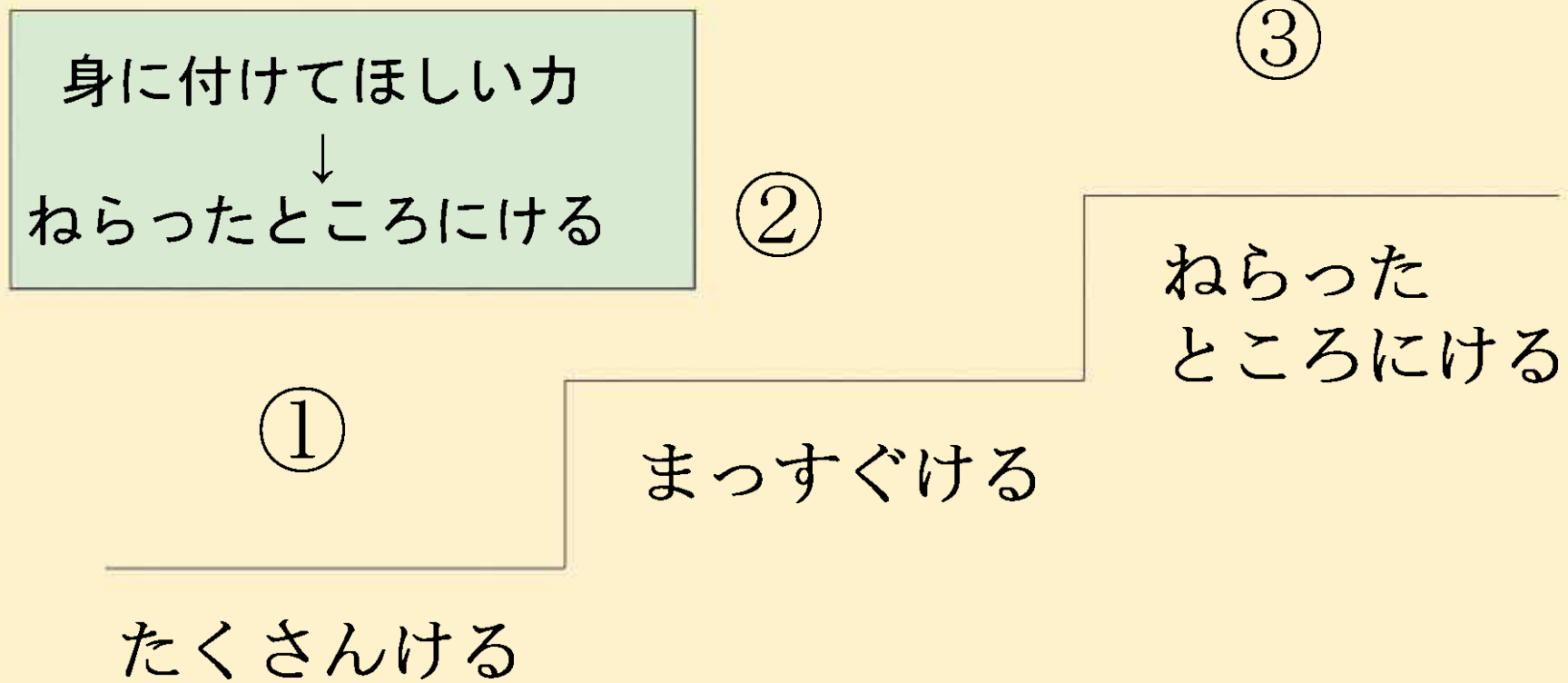
身近な諸問題として考え、解決方法を話し合うことができる！

研究のまとめ

スモールステップの積み重ね



主活動におけるスモールステップ (2年ボールけりゲーム)



友達との関わり方

身に付けてほしい力



知識を踏まえたアドバイスをする

②

③

友達に行い方を
アドバイスする

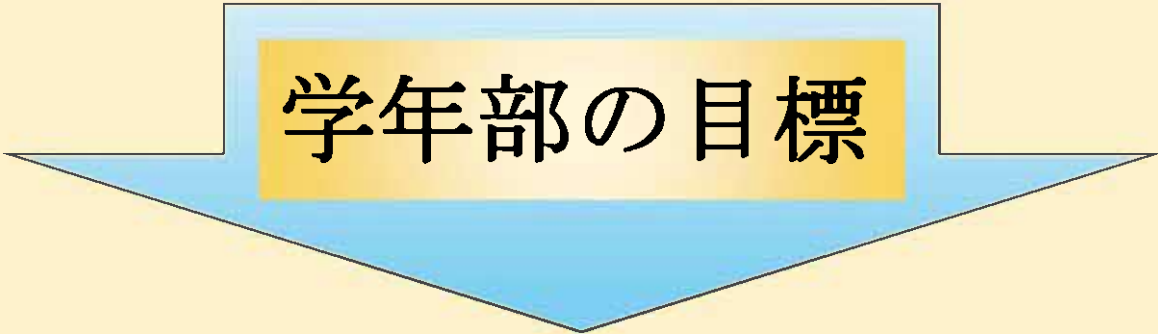
①

友達を
応援する

友達となかよく
楽しむ

系統性への意識

- ☆ 次の学年のどの動きにつながる
- ☆ 前の学年のどの動きから、つながっているか



学年部の目標

手立てを考える

前転グループ

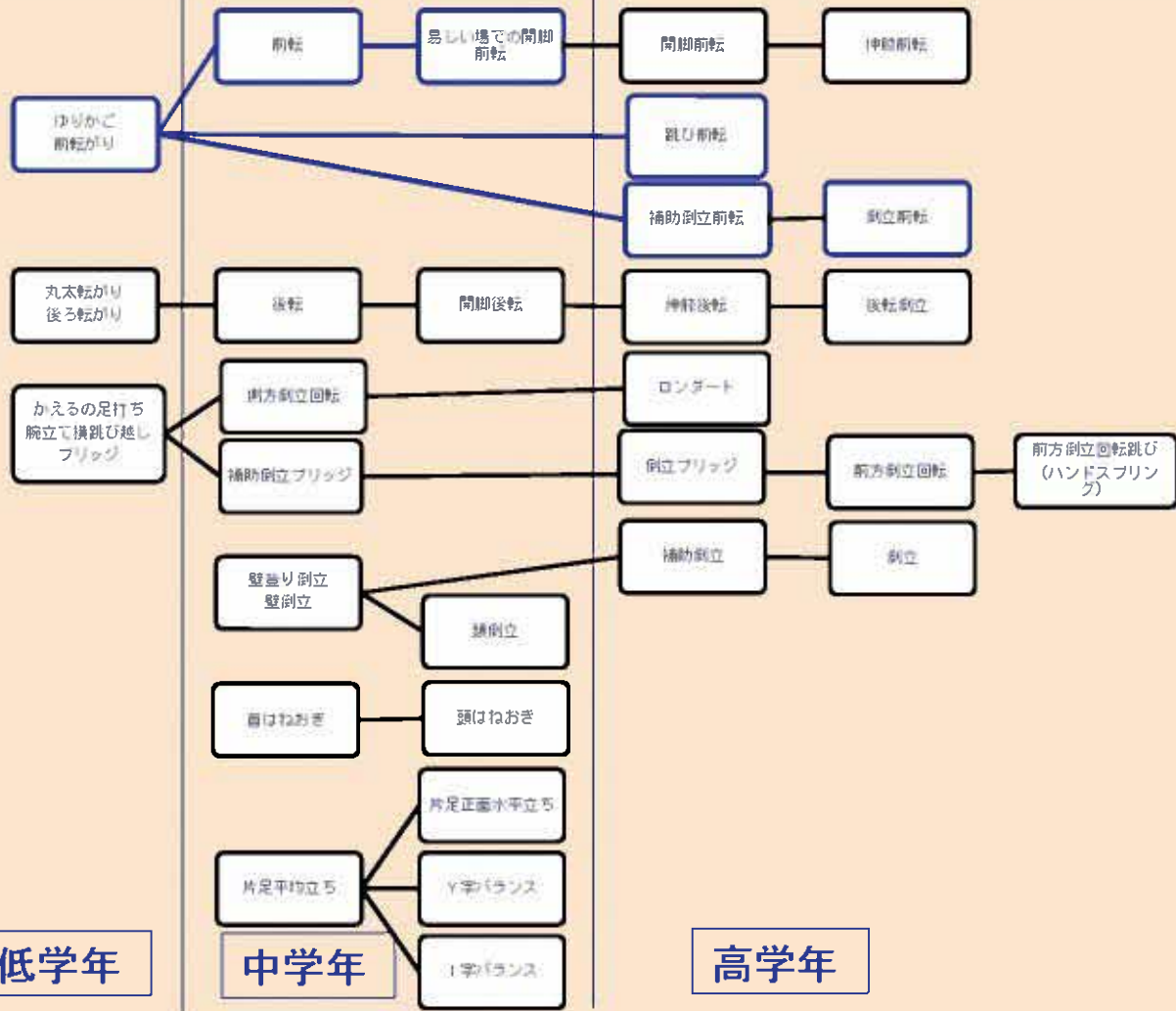
後転グループ

倒立回転グループ

倒立グループ

はねおきグループ

平均立ちグループ



低学年

中学年

高学年

用具・掲示物の共有化

前転



ICTの活用

目線が手本と違うね。
次は腕だけじゃなくて
目線を意識してみよう！



倒立の姿勢をしっかりと撮っておいてね！



成果

- ・ 児童の活動する場やポイントを意識していたため
教師が伝える内容の質が高まった
- ・ 児童が夢中になれる題材設定や場を作ることで、
児童が活動する時間が増え、運動量が増えた



課題

□ 楽しんで体育に取り組んでいた

➡ 楽しいだけの場になっていたところもあった

□ 系統性への意識が低かった

➡ 次の学年にどうつなげていくか

□ 児童がしっかりとめあてを意識できていたか

➡ 運動の特性についての理解

課題

柔軟に
考えた揭示

授業の中の手立て

単元で身に付けたい
技能のポイント

児童の
必要感

一次支援として
必要な子が使う

使わなくてもよい

別のやり方でもよい

必ず行う手立て

考察

主体的な学び

- ・ 主運動につながる予備運動
- ・ 技能のポイントをおさえ取り組めるようにする場の設定

対話的な学び

- ・ 友達にアドバイスをもらったことがきっかけでできるようになる
- ・ ポイントをもとに伝え合う

深い学び

- ・ 友達の考えや取り組みをお互いに認め合い、取り入れながら運動する
- ・ 自分の課題と実態を照らし合わせて考える

拙い発表でありましたが
ご清聴いただき
ありがとうございました